

福大スポーツ

株式会社 **ミドリ印刷** 自費出版 **ふくおか**
 TEL 092-292-0300 FAX 092-483-9089
 〒812-0016 福岡市博多区博多駅前6丁目17番12号

ESM1 TEL 441-6665 **G&M** TEL 441-6748
 〒812-0016 福岡市博多区博多駅前6丁目17-16 プリンティング福岡ビル2F FAX 441-6651
 ・http://www.midori-p.com ・E-mail/midori@midori-p.com



令和3年 2021
 12月3日 金曜日
 福岡大学体育会機関紙
 発行人 長井 幹
 編集責任者 仲西奈名美
 福岡市城南区七隈八丁目
 電話 092(864)3707

やり投

短距離 (100m/200m)

児玉芽生

上田百寧

陸上界を牽引

努力の上に
 花が咲く
 上田百寧

思い続ける者が勝つ。
 児玉芽生

自己記録 61m75

- ・日本学生陸上競技個人選手権大会
2年次 やり投 優勝 57m02
- ・日本学生陸上競技対校選手権大会(全日本インカレ)
2年次 やり投 2位 56m38
3年次 やり投 優勝 58m12
4年次 やり投 2位 58m72
- ・GP Denka Athletics Challenge Cup 2021
優勝(日本歴代6位 61m75) etc...

自己記録 11秒35/23秒44

- ・日本学生陸上競技対校選手権大会(全日本インカレ)
3年次 100m・200m・4×100mR 優勝
(100mは日本歴代3位、日本学生記録11秒35)
- 4年次 100m・4×100mR 優勝、200m 3位
(4×100mRは日本学生記録44秒51)
- ・東京2020五輪
4×100mRのメンバーに選出 etc...

今回はシーズンを終えた上田百寧さん(ス4)と児玉芽生さん(ス4)に取材させて頂きました。

早速ですが、4年間を振り返っていかがですか？

児玉「私は『世界への挑戦』という大きな目標を掲げて福大に入学しました。4年間を振り返って、2、3、4年生で日本選手権で優勝、4×100mRではオリンピックに出場するなど結果はとも充実していました。きつことの方が多く、世界で戦うことがどれだけ大変なことなのかとも分かりました。しかし、先生や仲間や家族を支えてもらい、ここまで来れたと思います。シーズンを終えて改めて福大の陸上競技部を選んで良かったと思います。」

上「3、4年生の時に記録がどんどん伸びていく一方で、肘を痛めるというところもあったけど乗り越えることができたのは周りの方の支えがあったからだと思います。初めて日本一になった時が一番嬉しかったです。」

ありがとうございます。次に印象に残っている試合はありますか？

児「今年の全日本インカレ4×100mRで学生記録を出しました。」

上「私は2年生の時の個人選手権です。」

なるほど。それではお互いどんな印象を持っていますか？

児「百寧ちゃんとは種目が違うからあまり話したことはないけど、インターハイで表彰台に登っている姿を見て、『九州の子が表彰台に登っているー凄いなー』と思っていました。(笑)それが初めて百寧ちゃんを見た時です。種目は違っても同じ目標に向かって頑張っている姿にとても刺激をもらっています。」

2人で深い話をしたこと無かったけど、百寧ちゃんを見ると私も頑張ろうと思わせてもらっています。」

上「私は高校の時からとにかく本当にすごい人だと思っていました。(笑)そんな芽生ちゃんとまさか同じ大学になると思っていませんでした。大学でも活躍していて、種目は違っても自分もあんな風になりたいなと思っていました。私自身オリンピックを目指して頑張っていて先に芽生ちゃんがオリンピックに出場したから、次は一緒にオリンピックに出られたらいいなと思います。」

種目が違ってもお互いの頑張っている姿を見て自分も頑張ろうと思える姿勢が素晴らしいです。次に好きな言葉や大切にしている言葉はありますか？

児「高校の時に言われた言葉でも大切にしていて、言葉ですが、『思い続ける者が勝つ』なるように、『努力の上に花が咲く』という言葉です。もう一つが『自分のやってきたことを信じる』という言葉です。」

なるほど。こちらも大切な言葉ですね。最後に今後の目標を教えてください。

児「100mと200mの日本記録を更新するのを目指して、来年の世界陸上、アジア大会での個人種目出場し、アジア大会では表彰台に登りたいです。」

上「来年の世界選手権に出場できるように、この冬でしっかり追い込んで記録を伸ばし、日本選手権で優勝することです。」

(大久保菜歩)

卒業目前4年生エース
 2人がこれまでを振り返る

男子部



ありがとう、4年間。 つくる、新しい道。

第56回全日本大学男子ソフトボール選手権大会において、本学ソフトボール男子は準優勝を成し遂げた。

キャプテンを務めた山下太一(ス4)は新型コロナウイルスによる中止の不安もあった中、たくさんの方のご支援のもと、無事に開催できたことへの感謝の気持ちを忘れずに全国制覇を目標に一致団結して今大会へ挑んだ。今大会の結果について山下は、「一年間全日本インカレで優勝するのだけを考えて日々練習に取り組んできました。二年連続で決勝進出を果たすもの、あと一歩で優勝を逃すという悔しい経験をしました。後輩たちにはこの悔しい経験を糧に一年間練習に励み、悲願の初優勝を勝ち取ってほしい。」と語った。

キャプテンとして常にチーム全体を客観視し、自分ができることを考えて行動してきた山下は、「チームを内側からではなく、外側から俯瞰して見ることを心がけた。」と話してくれた。全日本インカレ優勝という目標を常に念頭に置けば、優勝に近づけるはずだという想いを全員に共有し、高い意識を持ち続けられる環境づくりに励んだという。このような山下のチームに対する熱い想いが準優勝という素晴らしい結果へと導いたのだらう。

四年間を振り返って山下は「苦しいとき、楽しいとき、悲しいとき、嬉しいときも支え合い、励まし合い、共に笑い合

陸上競技部 渡邊 輝

～成績～

- 3年次
 - 第7回木南道孝記念陸上競技大会 女子GP100m 第1位 11"88
- 4年次
 - 第76回九州陸上競技選手権大会 女子100m 第2位 11"93
 - 女子200m 第1位 24"37

水泳部 濱本周樹

～成績～

- 日本学生選手権水泳競技大会
 - 3年次
 - 100m平泳ぎ 25位 1:02.16
 - 200m平泳ぎ 9位 2:12.26
 - 4年次
 - 100m平泳ぎ 19位 1:01.40
 - 200m平泳ぎ 9位 2:11.82
 - 4×100mメドレーリレー 13位 3:42.15(福大新記録)

9月18日に行われた日本学生陸上競技対校選手権大会(全日本インカレ)の決勝において、本学陸上競技部が女子4×100mリレーで日本学生新記録・大会新記録である44秒51を記録し、見事に優勝を果たした。走者は伊藤彩香(ス1)、兒玉芽生(ス4)、渡邊輝(ス4)、城戸優来(ス2)の4人。その中でも第3走として、兒玉が広げた他選手との差を少しも縮めることのない素晴らしい走りを見せた渡邊は、「絶対に日本学生新記録で優勝するという気持ちのみで挑んだ。」と語った。大会のために日頃から練習を試合のよきな気持ちでバトンや走りの練習を行ってきたが、特に

10月に第97回日本学生選手権水泳競技大会が開催された。濱本周樹(ス4)は男子200m平泳ぎに出場。結果は9位と惜しくも決勝進出は叶わなかったが、8位との差0.01秒と競泳において最も短い秒差で記録を残した。大会を終えての感想を伺った。「0.01秒という僅差で、決勝に出られなかったことは悔しい。2、3年でも9位だったため最後のインカレでは決勝に残りたかったが、今回ベストタイムで終えられたので本当によかった。」と振り返った。大会までの過ごし方を聞くと、様々な葛藤があったと打ち明けてくれた。「去年は3年で就活が始まり、水泳に集中でき

ない時期があり、結果が出ないことも続いた。インカレが近づくと、最高学年として結果を残して締めたいと踏ん切りがなかった。中学から本格的に水泳を始め、これまで水泳ができない期間を過ごしたのは初めてのことだったという。

これまでの大学4年間のことを振り返ると、「毎年ベストを更新していたが、精神的にプレッシャーに押されたり、コロナ禍による環境の変化で不安を感じたりしていた」と話してくれた。周りからは順調だと思われていても、様々な苦労があったことが窺える。それでも水泳を続けてきて良かったことは、全国に友達が増えたことだ。「友達としてライバルとしても、全国で頑張っている仲間がいると励みになる」と語ってくれた。大学4年間の経験をどう活かしていきたいかと聞くと、「この4年間、順調にいかないことも沢山あった。その度に改善するための原因探しを怠らなかつた。問題に対してのアプローチのかけ方を試行錯誤しながら解決に導く力を活かしていきたい」と述べた。

今回取材を通して、初心を忘れず、水泳に向き合ってきた濱本のひたむきな姿勢を感じた。これからはこの経験を活かし、活躍の場を広げて欲しい。(吉郷萌)

たからである。しかし、このような壁を乗り越えて大会では目標としてきた日本学生記録の更新、優勝を見事達成した。渡邊は「このように目標のひとつをクリアできたことは嬉しく思っているし、自分の財産になると思う。」と語った。また、辛かったことを聞くと、「数え切れない程ある。」と笑顔を見せたが、しかしそれを乗り越えて試合で結果が出た時ほど嬉しく感じるという。その中でも特に印象に残っているのは昨年の全日本インカレと今回の優勝で、「昨年は自身の中で初めてリレーで日本一というものを獲得でき、その時に『これが日本一』かと肌で感じ

陸上競技部 高島 真織子

今回は、2021年度日本学生陸上競技個人選手権大会女子三段跳にて優勝を果たすなど、昨年に続いて様々な大会で素晴らしい成績を収めた高島真織子(ス4)に、これまでの選手生活について取材した。

「今回は、2021年度日本学生陸上競技個人選手権大会女子三段跳にて優勝を果たすなど、昨年に続いて様々な大会で素晴らしい成績を収めた高島真織子(ス4)に、これまでの選手生活について取材した。」

「今回は、2021年度日本学生陸上競技個人選手権大会女子三段跳にて優勝を果たすなど、昨年に続いて様々な大会で素晴らしい成績を収めた高島真織子(ス4)に、これまでの選手生活について取材した。」

「今回は、2021年度日本学生陸上競技個人選手権大会女子三段跳にて優勝を果たすなど、昨年に続いて様々な大会で素晴らしい成績を収めた高島真織子(ス4)に、これまでの選手生活について取材した。」

「今回は、2021年度日本学生陸上競技個人選手権大会女子三段跳にて優勝を果たすなど、昨年に続いて様々な大会で素晴らしい成績を収めた高島真織子(ス4)に、これまでの選手生活について取材した。」

(写真提供・4years. 松永早弥香)



- ～成績～
- 3年次
 - 天皇賜杯第89回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子三段跳 優勝 (12m95) <福岡大学歴代記録 3位>
 - 天皇賜杯第90回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子三段跳 4位 (12m22)
 - 4年次
 - 第104回日本陸上競技選手権大会 女子三段跳 4位 (12m72)
 - 第105回日本陸上競技選手権大会 女子三段跳 6位 (12m49)

ソフトボー



「今回は、2021年度日本学生陸上競技個人選手権大会女子三段跳にて優勝を果たすなど、昨年に続いて様々な大会で素晴らしい成績を収めた高島真織子(ス4)に、これまでの選手生活について取材した。」



陸上競技部 津波 愛樹



- ～成績～
- 3年次
 - 第48回九州学生選手権 女子400mH 第1位 60"19
 - 4年次
 - 第105回日本陸上競技選手権大会 女子400mH 第3位 58"17

「今回は、2021年度日本学生陸上競技個人選手権大会女子三段跳にて優勝を果たすなど、昨年に続いて様々な大会で素晴らしい成績を収めた高島真織子(ス4)に、これまでの選手生活について取材した。」

(中田美帆)

「今回は、2021年度日本学生陸上競技個人選手権大会女子三段跳にて優勝を果たすなど、昨年に続いて様々な大会で素晴らしい成績を収めた高島真織子(ス4)に、これまでの選手生活について取材した。」

野球部 仲田慶介

【プロフィール】1名前／2あだな／3好きなものこと／4コロナ明けにしたいこと／5実はこんな特技があります／6このアーティストのこの曲に元気づけられた／7試合前にする決まってること

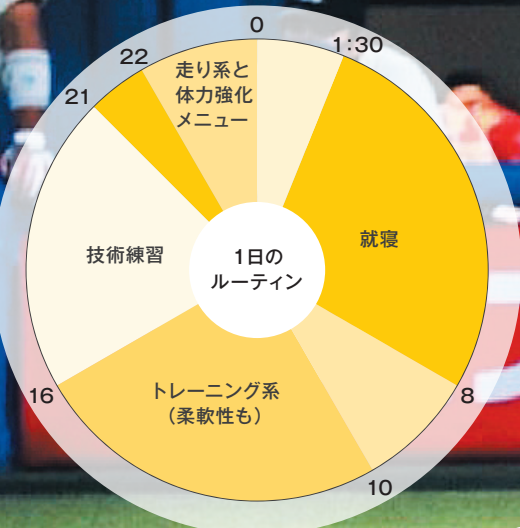
1 仲田慶介(スポーツ科学部4年)／2 ジェリー、カレーパンマンなど／3 夜寝ながら音楽聴くこと／5 卓球／6 ビーグルクルーのTV again／7 モチベーションが上がるような音楽をきいて浸ること

1 坪根菜々子(法学部4年)／3 たくさん食べることが好きです／4 柔道部みんながパーティーがしたいです／6 これが好きという曲はないのですが、はまったらひたすらその曲だけ聞くタイプです。笑／7 試合日の朝はオレレンジューズを飲みます。笑

秋も暮れ2021年も立冬を迎えた。そんな中、これから世界を相手にする選手達も卒業という門出を迎えようとしている。その一人である坪根菜々子(法学部4年)に我々は取材を申し込んだ。以下は夏の取材内容を二問一答形式でまとめたものである。

「環境に恵まれていたのもあり、大学に上がってからもっと柔道が好きになりました。」
 「2021年全日本選抜体重別選手権大会女子52キロ級で優勝なさった件についてですが、何かコメントがあればいただきたいです。」
 「入学してからなかなか勝てない時期が続きましたが、私を信じてくれた両親や向き合ってくれた監督、一緒に励まし合ってくれた仲間、関わってくれた方々のおかげで優勝することができました。環境もそうですが、本当に周りに恵まれていると感じています。幸せです。笑」

「大学を卒業しても柔道が続けるので、これからもっと成長できるように頑張りたいです。残り少なくなりましたが、一日一日を大切に後悔しないように過ごしていきたいです。」
 (館美吹)



福岡ソフトバンクホークス 育成14位

第70回全日本大学野球選手権大会、全国ベスト4という結果を残し、2021年プロ野球ドラフト会議にて福岡ソフトバンクホークスより、育成指名を受けた本学野球部、仲田慶介(24)に話を伺った。

「大学生活4年間を振り返ってどうでしたか？」
 「福大での大学4年間は、自主的に考えて練習する時間が多く、自分の成長につながるいい時間でした。又、良い仲間に出会えて良かったです。」
 「全国ベスト4をこえた時の感想について教えてください。」
 「まさかベスト4までこれるとは思っていなかったもので、とても嬉しく思いました。」
 「プロ野球ドラフト会議当日の心境について教えてください。」
 「当日の心境はとにかく不安と緊張でソワソワしていました。選ばれた瞬間はホッとしたという気持ちが大きく、とても嬉しかったです。ここからが本当に勝負だと思うので、これまで以上に野球に真摯に取り組み、必ず這い上がってやります。」
 「では最後に、卒業後の目標について教えてください。」
 「一日でも早く、プロの世界に慣れて、活躍できるように頑張りたいと思います。」
 「プロの世界へと羽ばたくチャンスを見事掴みとった彼がプロとして活躍している姿に期待したい。」
 (山内香澄)

高みを目指して 次の舞台へ

柔道部 坪根菜々子

